

令和二年度 入学考査問題

東大・医進クラス 2月1日 AM

国語

注意

- (1) 指示があるまで表紙を開かないこと。
- (2) 問題および解答用紙の両方に受験番号・座席番号を記入すること。
- (3) 声を出して読まないこと。
- (4) 解答は全て解答用紙の所定の欄らんに記入すること。

受験番号

座席番号

※問いに字数指定がある場合は、句読点なども一字として数えます。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

午後の授業がはじまる前に、田所先生がいました。

「五時間目は、運動場で二年生全員が集まって紙芝居を見ることになった。新聞社の人がみんなのことを写真に撮りたいそうだ」生徒たちは列をつくって屋内運動場へ行き、前方におかれた紙芝居の台と椅子をぐるりとかこんで床にすわりました。床板のすきまからよきによきはえたきのこのように、いがぐり頭とおかっぱ頭がぎつしりならんでいます。運動場は窓ガラスにひびがはいっていたり、窓枠がゆがんでいたりで、冷たい風がどこからともなくはいつてきて、寒くて鼻水をたらした子もいました。

新聞記者は、まだ運動場に来ていませんでした。紙芝居をするのは二組担任の細山先生です。いつもよりきちんと髪をたばね、口紅もつけて、ていねいな口調で話しはじめました。

「きょうはこれから、新しく来たばかりの『フランダーズの犬』という紙芝居をします」それを聞いて、

①「えーっ、『フランダーズの犬』だって。いやだ。どうしよう」

春子は、声にはださない悲鳴をあげました。

『フランダーズの犬』は、春子が夜ふとんにはいったときに、お母さんが読んでくれる本のなかで、いちばん悲しいお話でした。何回も読んでもらって暗記するほど知っているのに、春子は毎回、主人公のネルロのおじいさんが死んでしまうところまでくるとふとんをかぶり、ネルロと犬のパトラッシュが食べ物をさがしてうろつく場面になるとふとんの中で耳をおさえます。そして最後のページの、友だちの女子アロアが教会で死んでいるネルロとパトラッシュの体をゆさぶるところでは、声をこらして泣いてしまうのです。

どうしよう。先生の前では耳をおさえることはできないし、泣きだしてもかくれるところがありません。それに、話の途中で涙をこぼしたら笑われるにきまつています。

紙芝居がはじまりました。一枚目の絵は、フランダーズの野原の景色で、二枚目はおじいさんとネルロが犬のパトラッシュとであう場面でした。それから、ネルロが教会へ絵を見にいったり、アロアの絵を描く場面へとかわっていききました。

話がすこしずつ後半に近づくにつれて、春子はだんだんおちつかなくなってきました。さいわい、大きな輪のいちばんうしろにすわっていましたが、②それでもあまりもじもじするわけにはいきません。ときどき両手をにぎりしめたり、目をぎゅつとじながらじつとがまんをして聞いていました。でも、おじいさんが死ぬ場面まではなんとかきりぬけましたが、ネルロが絵のコンクールに落選するところにくる

と、いてもたってもいられなくなってきました。いくらがんばっても涙がでてきてしまいます。見まわすと、みんなまばたきもしないでしんけんに見ています。ひとり椅子にすわっている田所先生だけが、こっくりこっくり居眠りをしていました。

春子は思いきって立ちあがり、いちばんうしろで立っていた広沢先生に、小さな声で「おしっこ」といいました。広沢先生も紙芝居に夢中で、前を向いたままうなずいただけでした。

だれにも気づかれないで、春子は鼻水をすすりながら小走りに、運動場のうしろの「便所」と書かれた戸口にかけこみました。紙芝居の絵は、あと二枚は残っているはずです。春子は奥にある教員用洗手の窓から、枯れた茂みの先の、灰色の空に向かって流れていく石狩川を見ていました。

しばらくたつて、話がおわったころをみはからつて出ていくと、ちょうどみんながばらばらと立ちあがったところでした。奥に、写真機をいじっている新聞社の人が見えました。

春子もどると、恵子ちゃんたちが口々にいいました。

「ハコちゃん、お便所に行ったの。すつごく悲しい話で、みんな泣いたんだよ」

「最後に、あの子も犬も死んじゃったの」  
といったやよいちゃんは、まだ涙ぐんでいます。

「男子だって泣いたんだから。和男ちゃんなんて、ぼたぼた涙こぼしてさ」

気のせいかな、みんな下をむいたまま教室に向かっています。

「残念だったね。最後が見られなくて。先生も泣きそうになったよ。それにすこし前、新聞社の人に来て、新聞にのせる全員の写真を撮っていったんだ」

広沢先生が、廊下の途中で春子の肩にぼんと手をおいていいました。

この日の帰り道、石狩川から吹いてくる冷たい風におされながら、春子は悲しい紙芝居の中にはいつてしまったように歩いていました。(べつにかくれなくなつたつてよかつたんだ、みんなも泣いたんだから。わたしのいいない写真が新聞にのるんだ。③) ばか、ばか、ばか。どうしてこうなつちやつたんだろ)

いくら考え考え歩いてても、どうにもならないことでした。

夕ご飯のとき、紙芝居のことはお母さんにもだまっていたのに、幸子がいいだしました。

「きよう、学校に新聞社の人来てね、ハコちゃんたち二年生を運動場で撮ったんだよ。新聞にのせるんだつて」

「へえっ、たいして運がいいんだね、ハコちゃんは。もしかして二枚ものるんでないかい」  
と感心している平井さんに、幸子がまたいいました。

「ううん。運動場のことがうるって先生がいつていたから、カボチャの写真は出ないよ」

「けど、ハコちゃん、一枚だつてすごいしよ。出たら見せてくれよな」

まるでみんな、新聞一面に春子の顔が出るような気でいるみたいです。いまさら、紙芝居が悲しくて運動場をぬけだし、写真にはいらなかったなんて、とてもいいだせません。春子は、ご飯茶碗に鼻の先がはいつてしまうほど頭をさげて食べていました。

その週の終わり、郵便屋さん新聞配達していきました。

村に新聞販売店がないので、一部ずつ細長きたんでまん中を帯でとめた新聞を、郵便局の人がほかの郵便物といっしょに毎日配達します。I の新聞はその日か一日遅れ、内地からののは二、三日遅れでどとき、天候しだいで、まとめて数日分が来ることもあります。

春子の家では、新聞も郵便物も封を切つてまっさきに見るのはおじいちゃんときまっています。新聞がとどいた昼前、おじいちゃんが大声でみんなをよびました。

「学校の記事が出ているぞ」

春子と幸子は、茶の間にとんでいきました。

「どれが春子かな。あんまり小さくてわからんな」

新聞には二枚、写真がのつていました。運動場の裏の崖つぶちに面した細い道の写真と、紙芝居をかこんだ二年生の写真でした。小さい写真に七十人も写つていて、そのうちうしろ折り返しにぶつかつていたので、見にくくてだれがだれだかはつきりわかりません。カボチャの写真は出ていませんでしたが、春子は、<sup>⑤</sup>がっかりするよりもなんだかほつとしました。

記事の見出しには、「小学校が危ない」と大きく書いてありました。

「なにがあぶないの？」

と幸子が聞くと、おじいちゃんがおしえてくれました。

「石狩川がすこしずつ侵食して土手をくずし、あと一メートルで運動場にたつするのだそうだ。危険きわまりないうえに校舎全体の老朽化も進み、教室数も少なくこれから急増する入学児童受け入れにも支障をきたすので、できるだけ早い対策がのぞまれる、と書いてある」

春子にはむずかしすぎる説明でしたが、哲史君がまちがっていないことがわかりました。

「雨もりもひどく、吹雪の日には運動場や廊下に、窓のすきまからはいつた雪の山ができて、子どもたちがかわいそうだ、とも書いてある。ほんとにそうだな。いかにもあの校舎は古すぎる。世津子がいいつてから修まで、いや、春子まであまり変わつておらんような気もするし」

おじいちゃんは、ひとりごとのようにつぶやいていました。

(北村恵理『ハコの牧場』による)

問一 〜〜線A〜Cの本文中の意味として最も適切なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

A どこからともなく

ア あらゆる方向から

イ とぎれることなく

ウ なんとなく

エ 場所がはつきりしないが

B いてもたってもいられなく

ア じつとしているのが難しく

イ すわつていられなく

ウ 涙をこらえるのがつらく

エ 耳をおさえたく

C 支障をきたす

ア 重大な問題が起こる

イ 対応ができなくなる

ウ 都合の悪いことが生じる

エ 不可能に近い状態になる

問二 ――線①「えーっ、『フランダーズの犬』だつて。いやだ。どうしよう」とありますが、春子が「いやだ」と思ったのはどうしてですか。わかりやすく説明しなさい。

問三 — 線② 「それでもあまりもじもじするわけにはいきません。」とありますが、春子がそのように思ったのはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア 紙芝居の途中で涙をこぼしたらみんなに笑われるに決まっているから。
- イ みんなが真剣に見ているのにひとりです便所に行くと思立ってしまうから。
- ウ 何度も読んでもらっていて、これから悲しい場面になるとわかっていたから。
- エ 紙芝居であっても学校行事なのでまじめに見ていないと注意されてしまうから。

問四 — 線③ 「ばか、ばか、ばか。」とありますが、春子がそのように思ったのはどうしてですか。理由を二つあげてわかりやすく説明しなさい。

問五 — 線④ 「春子は、ご飯茶碗に鼻の先がはいってしまっほど頭をさげて食べていました。」とありますが、このときの春子の心情の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 写真に入っていないことをせめられたくない。
- イ 写真に写らなかったことを思い出したくない。
- ウ 写真の話題についてふれられたくない。
- エ 写真について幸子に余計なことを話してほしくない。

問六 I にはこの物語の舞台となる都道府県名が入ります。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。またそのように考えた理由を簡潔に説明しなさい。

- ア 北海道
- イ 東京都
- ウ 京都府
- エ 沖縄県

問七 — 線⑤「がっかりするよりもなんだかほっとしました。」とありますが、春子がほっとしたのはどうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選**び**記号で答えなさい。

- ア いつ来るかわからなかった新聞が無事に届き、ようやく気になっていた記事や写真の内容を確かめられたから。  
イ カボチャの写真がないのは残念だが、だれがだれだかわからないおかげで自分がいないこともわからないから。  
ウ カボチャの写真が出ないことに落胆らくたんしながらも、運動場にいなかったことをみんなから責められず、安心したから。  
エ みんなは春子の顔が新聞の一面に大きくのることを楽しみにしていたので、その期待を裏切らずに済んだから。

問八 本文の内容や表現の説明として適切でないものを次のア～エから一つ選**び**、記号で答えなさい。

- ア きちんと身なりを整えた細山先生や真剣に聞いている広沢先生とは対照的に、居眠りをする田所先生が物語にアクセントをつけている。  
イ 「灰色の空に向かって流れていく石狩川」「石狩川から吹いてくる冷たい風」という描写びやうしやは、悲しみにひたる春子の心情も示している。  
ウ 新聞記事には石狩川のはんらんの危険性や校舎が古く修理が必要などころもあること、今後教室数が足りなくなる可能性について書いてあった。  
エ おじいちゃんは小学校が昔から変わらず窓も壊こわれたままだと知り、そのような状態で授業を受けている春子たちがかわいそうだと思います。

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

① 働くことは、その結果として何かを生み出すということでもある。何か、とは製品であったり、サービスによって得る喜び、満足であったりということだ。これまで一番に大事だとされてきたのが製品、ものを作ることであった。その働きが「生産労働」である。このものづくりの労働が一九八〇年代に入ってコンピュータ化やロボット化によって大きく変化し、生産労働に従事する人たちが次第に少なくなった。生産労働の現場は、組み立てラインでの単純作業もまだありながら、コンピュータ付きの機械を使うなどして働くことが多くなり、これまでに知的な活動のできる人が求められている。

また、お客様のお世話をする働きの「サービス労働」。これは、医療、福祉、金融、公務員、美容師、理容師、飲食業、旅館や旅行業などでの仕事だ。こちらは、特に人間関係を上手にあやつれる人が望まれている。コンピュータ、インターネット関係の仕事も新しく大勢の人が働く仕事になってきた。これらもサービス労働の一種だ。いまはサービス部門で働く人々が非常に多くなっている。

君たちのお父さん、お母さんは、学校を卒業して働き始めてから職業を変えていないか。ものづくりをしていた人がサービス業で、銀行に勤めていた人がスーパーで働いていたりということがないか。お母さんの職歴は、変化していることが多いだろう。身近な人たちの働き方とその変化について聞き、そのことの意味を考えてみよう。

どのような仕事でも働く時に共通するのは、相手（人、機械など）があり、仕事を進める手段に手順があり、途中でその働きを評価し、最後にその働きで報酬や感謝の言葉、態度を受け取るということだ。確かに仕事はさまざまだし、その働きも仕事によって違いがあるように思われるけれども、その基となることを探ってみると、共通していることが多い。

君たちの勉強にしても、ほとんど同じではないか。先生などの相手がいって勉強が始まり、勉強には手順があつてうまくその手順を覚えて従うと効率のいい勉強ができる。勉強の途中で自分で、あるいは先生に、その途中経過をチェックしてもらおう。すると、それからの勉強がうまくできていい成績がとれる。こう考えれば、つまりは学校で勉強していることが会社や社会で働くことを勉強していることになるのだと分かるだろう。先についてまた考えるけれども、<sup>②</sup> 会社で君たちが必要とする力は、どれだけものを知っているかだけでなく、どのようにして問題を発見し、その発見から得た課題をどう解きほぐす手段を持ち、努力を重ねて新しいものを作ったり、驚くような感動を与えたりできるかなのだ。つまり、<sup>③</sup> 君たちが学校などで得て蓄積している知識は、基本として必要なものだが、それだけの知識で将来にわたって働き続けられるわけではない。

どのようにして価値あるものやサービスを生み出せるかが大切なのだ。それには、発見、分析、評価、成果の確認、さらにそれを検証できる力をどれほど持っているかが鍵となる。ものやサービスの検証は、企業社会では人々の反応、評判、売れ行きなどで判断する。学校での検証作業は難しい。まだ価値を生み出す途中だからだ。シミュレーションしている段階ともいえる。それだけにできるだけ多くの機会にさまざまなことにトライしてほしい。

学校は、価値を生み出す力を養うためにかなりの時間と手助けを得られる場所だ。働き始めると、そういう時間や手助けが限られてしま

う。だから、どれほどその人がひとりで見実を処理できるかが問われる。その力を少しでも高めるために、学校という場を活用しよう。

君たちは「授業」という言葉をどのように思っているだろうか。④ 私は、自分でこの言葉を使いながら、できるだけ使わないほうがいいと考えている。それは、授業という言葉は、生徒や学生にとって「与えられるもの」を意味しがちだからだ。「授業」の「授」は、「授ける」だ。「業」は「わざ」。だから、何かのわざを授けるのが授業ということになる。「学校などで、学問・技芸などを教え授けること」(『広辞苑』)というのが辞典での解釈だ。

これまで学校は、この授業という考え方にとらわれすぎてきたのではないかとこのごろしきりと思う。本当は、「授ける」よりも、「考える力をつける」「問題を解決する力を養う」そうして「喜びを味わう力を高める」、そういうことが大事なのではないか。①、必要な知識や技術を基本から高い段階まで「授ける」必要はある。しかしそれでも、「授け」ながらも自分たちで探し出し、身につける力がつくような指導をからめたい。

⑤ 実は、そうした教え方で授業をするのは非常に難しい。生徒や学生たちが積極的に自分で考えるように導かないといけないからだ。それは、教師が知っている知識や技術を上のほうから授けるよりもはるかに難しい作業だ。授ける場合は、生徒や学生たちが与えられるものをどのように受け取るかは彼らの責任になる。②、生徒や学生たちが自分たちで考えるように指導する場合は、彼らを教師側に引き寄せないといけない。それだけでもエネルギーが要る。その上、この指導だと、生徒や学生の一人ひとりの力の差によって進度が違ったり、一律ではうまくいかない。

そのような問題があることから、従来型の「授業」をしてしまいがちなのだ。

そこで生徒、学生としては、授業を受けながらその授業中に自分で学び習う「学習」の習慣をつけるように努力する必要がある。先生がいま知っていることは、その問題の重要なところを本当に語っているか、その正しいということの裏には何か隠されているか。ひとつの方法を教えてくださいけれども、その他の方法はないのか。そんなふうに授業に「疑問」を持つこと。それが実際の仕事をされる際の「問題発見」に役立つ。もつとも、授業の中であまりそういう作業をしていると、先生から「何を上の空で聞いているのか」と叱られるかもしれない。そういう時は、「はい、すいません」と謝っておこう。謝らずに弁解したり、説明していると、大人は相手が「反抗」していると思うだろう。そう思われるのは損だ。会社ではこういう場合が多くある。③、謝り方も学習しておこう。謝る時は、相手の正面に真っ直ぐ立ってはつきりと言葉を発し、深く頭を下げる。

もう、授業と学習は違うと分かるね。どちらかという授業は④的、学習は⑤的だ。私は、できる限り自律的であるほうがよい生き方ができると思っている。もちろん、教えられることを素直に受け取ることも大事だ。「素直に受け取る」ことは、自律的に近いから、私の流儀にかなう。

君たちには、学ぶ力を高く身につけてほしいと思う。そこで、そのことについて次節で考えてみることにしよう。

(森清『働くって何だ』による)

問一

I · II · III

に入る語として最も適切なものを次のア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上用いてはいけません。

ア しかし    イ その上    ウ だから    エ たとえば    オ もちろん

問二

——線①「働くこと」とありますが、「働くこと」すなわち「労働」に関する次の説明のうち、本文中の内容と一致するものとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 「生産労働」は製品やものを作る働きで、コンピュータ付きの機械が導入され、知的な活動のできる人が求められるようになった。

イ 「生産労働」はコンピュータ化やロボット化により仕事の内容は少なくなったが、組み立てラインの作業などがあり、まだ大勢の人が必要である。

ウ 「サービス労働」は医療、福祉、美容師などの分野で働くことで、人間を相手にする以上、人間関係を上手にあやつれる人にしかない仕事である。

エ 「サービス労働」は近年「生産労働」をしていた人が職業を変えて働くという状況が非常に多くなっているが、その逆はあまりない。

問三

——線②「会社で君たちが必要とする力」とありますが、これはどのような力ですか。本文中から三十字以内で探し、はじめと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問四 — 線③ 「君たちが学校などで得て蓄積している知識」とありますが、筆者は「学校」をどのような場所だと考えていますか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア その人がひとりで現実を処理できるかが問われる場所。
- イ 効率のいい勉強や仕事の方法を教えてもらう場所。
- ウ 価値を生み出す力を養うための時間と手助けを得られる場所。
- エ 問題を発見し解きほぐすことで、驚くような感動を与えられる場所。

問五 — 線④ 「私は、自分でこの言葉を使いながら、できるだけ使わないほうがいいと考えている。」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「この言葉」とは何ですか。本文中の言葉で答えなさい。
- (2) 筆者がどのように考えるのはどうしてですか。一般的な考え方と比較しながら、わかりやすく説明しなさい。

問六 — 線⑤ 「そうした教え方で授業をするのは非常に難しい。」とありますが、どうしてですか。最も適切なものを次のア～エから選び記号で答えなさい。

- ア これまで学校では学問や技芸などを教え授けるといふ考え方をしており、長い間それに基づく教え方にとらわれてきたから。
- イ 積極的に考えさせるには教える側に学ぶ側を引き寄せる力が必要である上に、力の差がある相手に対しては一律に指導できないから。
- ウ 知識や技術を授ける際には、生徒や学生たちが与えられるものをどのように受け取るかというところまで責任が生じてしまうから。
- エ 一人ひとり力に差がある生徒や学生には、必要な知識や技術を基本から高い段階まで身につけさせなければならないから。

問七 IV・Vに入る語の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア IV…学校 V…社会
- イ IV…自動 V…受動
- ウ IV…消極 V…積極
- エ IV…他律 V…自律

問八 次のア～オについて、本文の内容と合うものにはA、合わないものにはBを書きなさい。

- ア 仕事にはさまざまなものがあり違いもあるが、根本的には共通点が多く、学校の勉強も社会で働くことに通じるものがある。
- イ 学校で得る知識は基本的な教養として大事だが、将来が決まっていない時期に広く知識を与えられるので、無駄むだになるものが多い。
- ウ 社会に出ると使える時間や得られる手助けが限られてしまうので、学校にいる間にいろいろなことに挑戦するべきである。
- エ 生徒や学生は授業を受けるときには「疑問」を持ち、自分で学び習う「学習」の習慣をつける努力をする必要がある。
- オ 教えられたことは素直に受け取り、反抗的な態度を取らずに「はい、はい、いいえ」と謝ることは重要で、弁解や説明はすべきでない。

【三】 次の問いに答えなさい。

問一 次の文の「の」と同じ使い方をしているものをア～オから一つ選び、記号で答えなさい。

学校の友達と話す。

ア 英語の出来る人がうらやましい。

イ 帰宅するのが遅くなった。

ウ 行くの行かないのと迷う。

エ 大雨で川の流れが速くなった。

オ 妹の描いた絵を見る。

問二 次の文の主語、述語を一文節で書き抜いて答えなさい。

秋の運動会こそ、私の一番の楽しみだ。

問三 次の□にア～オのいずれかを入れてことわざ・慣用句を完成させるとき、一度も使わないものを一つ選び、記号で答えなさい。

□に衣着せぬ

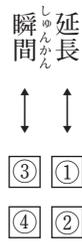
□は災いの元

□の上のこぶ

濡れ□で栗

ア 目 イ 頭 ウ 歯 エ 手 オ 口

問四 次の□にア～コのいずれかを入れて対義語を完成させるとき、①～④に入るものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



ア	遠	イ	進	ウ	属	エ	止	オ	短
カ	静	キ	縮	ク	近	ケ	永	コ	従

問五 次のア～エの文の順序を整えて意味の続きがはつきりした文章にするには、どのような順序にすればよいですか。はじめから順に記号で答えなさい。

ア このように古くからの地名には、地域のあり方や歴史的経緯を含んだものが数多く存在しています。

イ 八王子学園から北側の中央線をはさんだ甲州街道沿いに千人町という名前の地区があります。

ウ 千人同心とは、甲斐方面からの侵攻に備えて武田家の遺臣を中心に近隣の地侍や豪農を集めた組織です。

エ 千人町は八王子千人同心の屋敷があったことからその名が付きましたが、はじめは千人ではなく五百人であったため、五百人町と呼ばれていました。

【四】 次の①～⑩について、——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① ものすごい形相で走る。
- ② 山の頂からのながめがすばらしい。
- ③ 声色を変えて演技をする。
- ④ ここに至るまで長かった。
- ⑤ 氷で患部を冷やす。
- ⑥ よくウレた果実を選ぶ。
- ⑦ ヒニクの効いた発言をする。
- ⑧ 事件の背景をスイサツする。
- ⑨ 自転車のホウチが問題となる。
- ⑩ 駅のカイサツで待ち合わせをする。



解答用紙

2020年度

国  
東大・医進クラス  
2月1日AM

語

受験番号

座席番号

得点

二

問一	A
	エ
	B
	ア
	C
	ウ

問二 何回読んでもらっても泣いてしまう悲しい話だから。

問三

エ

問四

- ・みんな泣いていて自分が泣くことを気にする必要などなかったから。
- ・自分がない間に撮影が終わり、新聞に載る写真は入れなかったから。

問五

ウ

問六

都道府県

ア

理由

石狩が舞台であるから。／「丙地」という言い方をしているから。など

問七

イ

問八

エ

一

問一	I
	オ
	II
	ア
	III
	ウ

問二

ア

問三

はじめ

発見

、

分析

終わり

証

で

きる

力

問四

ウ

問五

(1)

授業

一般的には生徒が「写えられるもの」と考えがちだが、筆者は自分たちで考え問題を解決することが大事だと考えているから。

問六

イ

問七

エ

問八	ア
	A
	イ
	B
	ウ
	A
	エ
	A
	オ
	B

三

問一

エ

問二

主語

運動会こそ

述語

楽しみだ

問三

イ

問四

①

オ

②

キ

③

ケ

④

ア

※①②完答

※③④完答

問五

イ ↓ エ ↓ ウ ↓ ア

四

⑥	熟れた	⑦	皮膚	⑧	推察	⑨	放置	⑩	改札
①	ぎょうそう	②	いただき	③	こわいろ	④	いたる	⑤	こおり